



アイリッシュ海・イギリスのマン島で
巨大ウバザメを追う!

Photo&Text **Kagii Yasuaki**

ウバザメはプランクトン食である。口を大きく開いたまま海の表面近くを時速3.7キロでゆっくり泳ぎ
甲殻類やプランクトンを飲み込み、鰓耙でこし取る

**Man island in Britain
A huge basking shark**



マン島周辺には、繁殖行動のためにやって来ると言われているが、回遊ルートを含めその生態は未だ謎に包まれている



出会えたウバザメの大きさは約4〜5メートル、最大で15メートルになるという。(写真左)
巨大なウバザメに取り付いて血を吸うヤツメウナギ(写真右)

イギリス・アイリッシュ海に浮かぶマン島はバイクのロードレースで歴史的に有名な地。

そのマン島の西に位置する町・ピールでは、毎年5月〜7月にかけて、ジンベエザメに次いで世界で2番目に大きい魚・ウバザメが姿を現す。

かつてピールの漁師はウバザメの乱獲を行い、その個体数を激減させたが、1998年にウバザメ漁は禁止された。現在はボランティアで構成されているウバザメ協会の保護のもと

個体数や回遊ルートの調査が行われている。

ウバザメと聞いても、日本人には馴染みが薄いかもしれないが、かつては三重県沖でも潤滑剤や化粧品に利用価値がある肝臓などのために漁が行われていた。こちらも個体数の減少とともに、漁そのものが消滅した。

水温は約10℃。分厚いセミドライに身を包み、ウバザメと泳ぐことを試みた。

プランクトンで緑色になった水の中から大きな口を開けて現れるウバザメ。おとなしい性質であると分かっているが、その奇抜で怪獣のような姿に恐怖心を憶える。

海面近くをゆっくり泳ぐことから、英名ではバスキング・シャーク(日向ぼっこ)するサメと名付けられているが、実際、海中で出会った彼らは神経質で、私たちの存在に気が付くと、すぐに身を翻してしまう。

何度も接近を繰り返し、象のような肌を間近でも観察した。最後まで他のサカナたちのような愛着は感じられなかったが、未知なる海への好奇心を十分に掻き立てられた。

世界で2番目に大きい魚 ウバザメとの邂逅

Man island in Britain
A huge basking shark

 Information Link <http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/4515/top.htm> 情報HPへジャンプ



古き良き時代の イギリスの風景の先に 未知なる海が広がっている

小高い丘にロブール城を一望する「マン島」がある。
その昔、ウマイキーンが攻めてきた記録もある。



素朴な風景が広がる。島の大きさは淡路島くらい。



ヒースローから飛行機で1時間15分。ここは独立した自治を認められており、独自の貨幣、独自の国会などを運営している島。



大きな口を開けて、プランクトンを捕食し続ける
ウバザメ。大きな巨体を維持するために、いった
いどれくらい餌が必要なのか

**Man island in Britain
A huge basking shark**

Information Link <http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/4515/top.htm> 情報HPへジャンプ